



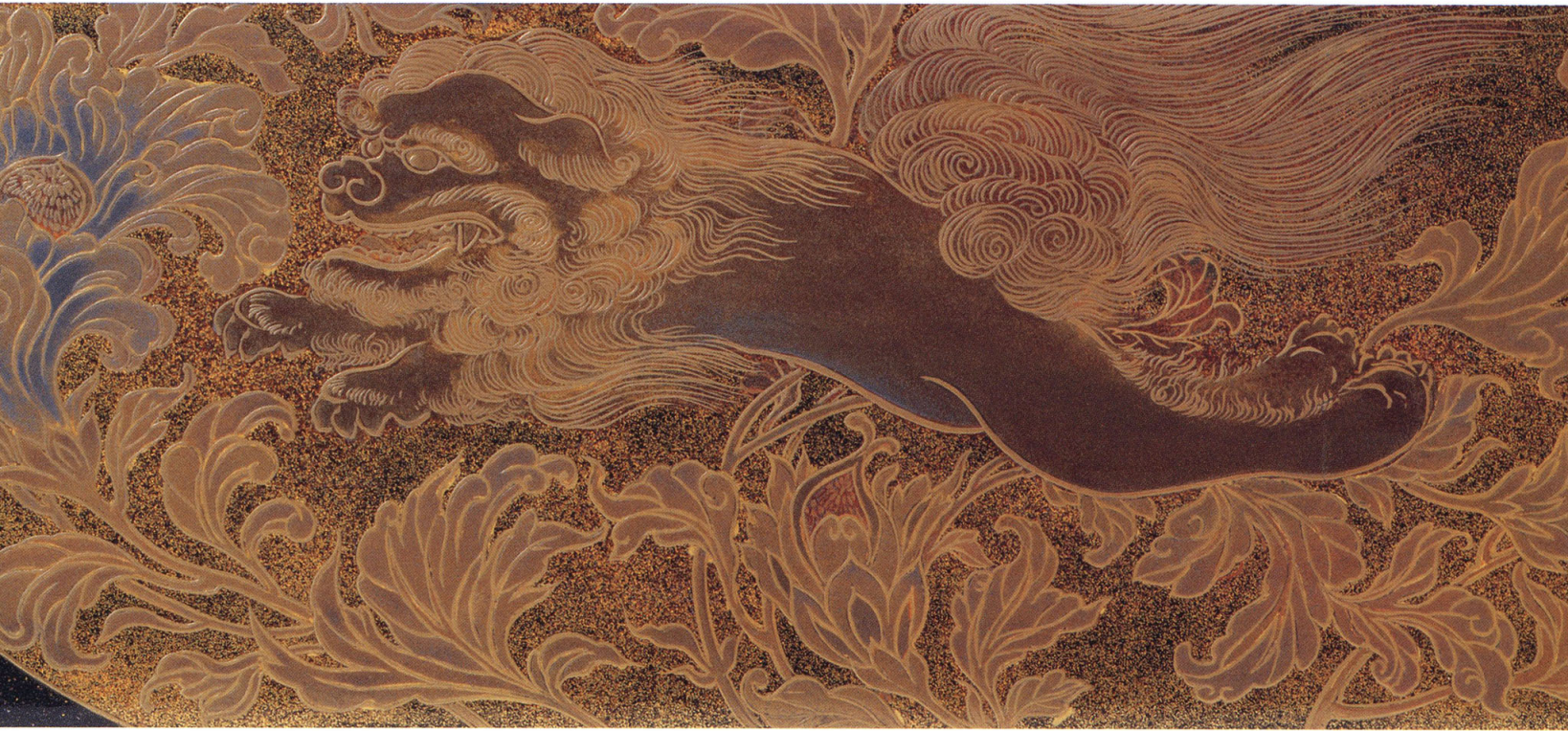
21 瑞鳥靈獸文蒔絵手箱 六角紫水 一点

昭和三年（一九二八）
木製漆塗、蒔絵 三〇・六×二三・六×一一・五

合口造りの手箱で、箱の稜線と合口には銀の覆輪が被せられている。蓋表には宝相華とその花枝をくわえてふわりと羽ばたく鳳凰を描き、短側面には向かい合わせの鳳凰を、長側面にはたてがみをなびかせて宝相華の中を駆け抜ける唐獅子が配されている。いずれも流麗な蒔絵の線で緻密に描かれており、軽やかさがありながら濃密に構成されたこの図様には卓抜したものがある（次頁部分図参照）。

作者の六角紫水（一八六七～一九五〇）は、明治二十六年（一八九三）に東京美術学校を卒業、古社寺保存会が設置された明治二十九年よりその修理事業に関わり、生涯を通じて古美術の研究を重ね、その成果を自らの創作活動に大きく反映していった。特に大正十四年（一九二五）頃より、漢代の楽浪遺跡から出土した漆器の調査に携わったことを契機に、その後の紫水の作品は大きく変わることとなった。本作の鳳凰や唐獅子の図様は正倉院宝物などの古作品を参考に紫水がアレンジしたもので、その伸びやかな線表現には、楽浪漆器研究の成果が看取れる。

この手箱は、大正十三年皇太子（昭和天皇）御結婚の折に制作が計画され、昭和三年（一九二八）に完成した蒔絵柵一對のうち、昭和天皇に献上された鳳凰菊文様蒔絵柵に付属する柵飾り品の一つである。



21 侧面部分



21 侧面全图

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections